



# センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20  
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880  
URL www.wfc.or.jp

## 長谷場専務理事 石井十次賞を受賞

3月末に突然、当法人本部に電話が入り、長谷場専務理事の石井十次賞受賞の一報が知らされた。ここ数年、法人として努力はしてきましたが連絡が無く、諦めかけていた中での嬉しい知らせでした。石井十次賞とは、国内初の児童養護施設を開設した宮崎県高鍋町出身の石井十次氏(1865～1914年)の精神を受け継ぐと1990年に石井十次顕彰会によって創設され、社会福祉に貢献した個人や団体に贈られる賞です。受賞者は今までに6個人、19団体です。全国各地の社会福祉協議会から推薦された個人・団体を選考委員会で協議の上、毎年1個人又は団体に授与されます。社会福祉法人共生会の福島理事長が、この賞の選考委員長を務めておられ、数年に亘って推薦をして下さった結果、受賞の運びとなり感謝しております。

顕彰会の数名が、わざわざ上京して長谷場専務理事を取材され、授賞式当日には、集まった多くの方たちに長谷場専務理事の功績と共に、当法人の歴史が判りやすく収録されたビデオが流されました。授賞式には、荒船常務理事が代理で出席しました。新宿寮から始まった当法人が、今年の1月に長谷場新宿寮として生まれ変わった姿も映し出され、法人の歴史を間近に感じられるビデオでした。又、授賞式に於いて顕彰会の黒木敏之理事長(61)は「児童福祉のために長年苦勞を重ねてきた姿は、まさに昭和の石井十次というべき人物」と、功績をたたえて下さいました。

石井氏自身は、医師の道を進んでいたにも拘わらず、1人の孤児と出会ったことにより、岡山で児童養護施設を立ち上げ、キリスト教の博愛精神を基に一時期は



孤児100名以上を預かる程の事業を成し遂げ、亡くなるまで努力を惜しまなかったと聞いています。宮崎県高鍋町では、郷土が生んだ石井十次氏について、小学校から彼の功績や人となりについて勉強をし、彼の偉業を後世に残すべく地道に努力を続けておられる姿にも、感銘を受けました。

当法人として名誉ある賞を頂いたので、理事会・事業所長会で考えて、職員手作りのお祝い会を企画し、4月24日長谷場新宿寮の地域交流スペースを利用して開催しました。

利用者と職員が一緒になって作った輪飾りを天井から吊るし、職員が作った手料理を会場に並べ、顕彰会が作成されたビデオを流す等手作り感とともに、一体感に溢れた祝賀会でした。渡辺茂雄評議員も出席し、お祝いの言葉を述べて下さいました。会場に集まった職員は長谷場先生の受賞の言葉に、長い間のご努力を身近に感じ、夢を持ち続けることの大切さも、これから利用者と接していく上での大事な視点であると感じました。なかなか、ゆっくりとはお話しできる機会が無い職員にとっても貴重な時間となりました。皆で受賞の喜びを共有し、これからの活力にと結びつけることができた祝賀会でした。

何かを始めるのも大変ですが、それ以上に永年続けていく事は、もっと大変なことです。長谷場専務理事が始めた当法人が、こうして継続できているのも専務理事は勿論、多くの後援者と共に役員・職員の地道な努力の結果であり、石井十次氏の精神や高鍋町の思いと相通じるものがあると感じた今回の受賞でした。



## 長谷場新宿寮 始動



の避難訓練を行うなど大切な利用者を守るためだけでなく、いざという時に地域でも役立つための取り組みを行っています。

長谷場新宿寮では、「よい子を育てる」というスローガンのもとでスタッフ一丸となって毎日を送っておりますが、その一環として大切にしているものがあります。それは年に数回行っている寮内行事です。10代からフルタイムで働き、自立を目指さなければならない寮生達にとって、健全な遊びを

平成 27 年 1 月 27 日、自立援助ホーム「新宿寮」は「長谷場新宿寮」として足立区扇にて新しい第一歩を踏み出しました。昭和 33 (1958) 年、豊島区の四畳半のアパート一間からスタートした新宿寮ですが、翌年新宿区中落合に移転、昭和 39 (1964) 年、鉄筋 5 階建ての建物が落成してから約 50 年余りを経ての、新しいスタートです。これもひとえに「次世代の担い手を育む」という理念に基づき自立を目指す児童を支える、当法人を応援してくださる皆様あってこそ。心より感謝しております。

足立区での新しい一歩として、まずは地域への定着を目指しています。古くから足立区に根付いてきた青少年福祉センターといえど、近隣の方々のご理解とご協力、地域のご理解なしでは存続できません。そして、ここから自立していく寮生が暮らすのは地域社会です。自分自身の暮らしだけでなく、騒音問題やゴミ問題、あるいは笑顔でのご挨拶など、近隣へ配慮ができるような寮生を育てたいと思っています。そのため町会等地域の行事へも積極的に参加し、地域交流を行うとともに連携を強めることで、職員および寮生も、地域への理解を深める取り組みをしていく所存です。

また、力をいれている事業計画の一つに、「防災」があります。足立区扇の広い敷地には、鉄筋 3 階建て以上の建物が 2 棟あり、また非常時の食料の備蓄も行っております。敷地内の 3 つの事業所で災害時の連携を円滑にするための防災会議は月に 1 回行っており、毎月

通して数少ない余暇を楽しむことは重要です。創始者長谷場夏雄の著書「かけがえのないあなたへ」の中でも、「発達に応じた社会化機能」を育てることと記されていくことでもあります。予算には苦慮しながらではありますが、それでも人生の経験値を高めるための努力を重ねています。そして新宿寮時代から毎年行っている「お正月の家」も、大切な伝統行事として引き続き開催していく予定です。時の流れとともに変わりゆくものも多くありますが、新宿寮を巣立ったかけがえのない子どもたちが、いくつになっても帰ってこられる場所として存続していけるよう、足立区での一歩を力強いものにしていこうと、職員一同士気を高めています。どうぞ今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



# 近況報告

## 児童養護施設 暁星学園のようす (定員 36 名)



2006年4月高齢女子児童のための地域小規模児童養護施設として開設されたうめだホームは、建物の老朽化に伴い、より本園に近い場所に「とねりホーム」として今年5月24日に移転、6月1日付けで新たに運営を始めました。うめだホームでは縦長の3階建てでしたが、とねりホームでは横長の2階建て

で1階に1名の児童部屋とリビング、ダイニング、2階に5名の児童部屋と職員用事務所が配置されています。特に移転後、児童に喜ばれているのは、広いリビングと、1階浴室以外に2階にシャワー室が設けられていることです。職員としては、キッチンから児童の様子が良く見えるカウンターがあるのがお気に入りポイントです。地域小規模児童養護施設ということで、地域の方々の関わりはまだまだ足りないと思いますが、まずは元気に挨拶するところから始めています。機会がありましたら是非お立ち寄りください。

## 児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 20 名)

あけの星学園では3月末に多くの入退所があり、進級・進学と新たなる出発に向けて準備に勤しむ日々でも



ありました。ゴールデンウィークには宿泊行事を行い、バーベキューや遊園地等で交流を深め、思い出がまた1つ増えました。夏休みはそれぞれが目的を持ちながら過ごしますが、学園では夏を楽しむ行事を予定しています。

前回のセンター通信でお知らせしたT君を皆さま覚えていらっしゃるでしょうか。実習を最後までやり遂げ無事就職を決めて卒業し、通勤寮に入寮して元気に頑張っています。

また、Y君は部活動のサッカー、更にはサッカーでの遠征合宿などにも励んでいます。学園で一番食べるY君でもあるので、入所した時は目線が同じぐらいだったのが今では身体つきもしっかりしていて、身長も見上げるほどになりました。他にもK君、Sさんは学業と両立しながらアルバイトに励んでいます。児童それぞれが目標や自立に向け、そして社会に出る為に職員一同、支援を続けていきます。

## 共同生活援助 ノエルのようす (定員 5 名)

現在3名の利用者は、ノエルでそれぞれの独り立ちに向かって日々頑張っています。

Hさんは、最近自ら自炊を始めました。野菜嫌いでしたが今では嫌いな野菜を自分なりに食べやすく工夫して調理することを楽しむまでに成長しました。

Kさんは笑顔が素敵で、会社でも皆の人気者です。仕事で大変なことがあっても、もちまへの明るさと笑顔で乗り越えながら頑張っています。

Mさんはイラストを描くのが得意です。会社ではお客様にお出しするメッセージカードを作ったりもしています。Mさんはお客様に喜んでもらえるにはどうしたらいいか一生懸命考え、カードの作成に取り組んでいます。

職員はそんな一生懸命な利用者を、暖かく見守りながら、支援を続けていきたいと思っています。



## 自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす (定員男子 15 名)

「長谷場新宿寮」として新たな歩みを始め、半年が経とうとしています。足立区に移転して間もない頃は不安もありましたが、月に一度の寮生ミーティングや日々の関わりの中で、「皆が安心安全に生活できる長谷場新宿寮とは何だろう」ということを、利用者と職員で一緒に考えてきました。その結果もあり、長谷場新宿寮としての形が段々と出来上がってきたように思います。そこには、寮生と職員だけではなく、長谷場新宿寮を支えて下さる沢山のボランティアの方々や寄附者の方々がいらっしゃることに感謝しながら、日々を過ごしています。



一緒に長谷場新宿寮を作っていく仲間として、沢山の行事にも行ってきました。十代で社会に出て行かなければならない利用者にとって、同年代同士で遊ぶ経験や、自分の知らない土地で初めての体験をすること、そして外の社会を知ること等の経験が出来る行事を非常に大切にしています。

これからも、利用者と職員、そして後援者の方々と共に、新天地足立区扇にて更なる歴史を創っていきます。

## 自立援助ホーム 清周寮のようす (定員女子 15 名)

年度末から新年度にかけ入退寮があり、子どもの様子も変わりました。この春から新社会人として2名の利用者がトライアル雇用から正社員を目指すべく日々仕事に満身しています。同時に職員も2名の新社会人を迎え、彼女らと一緒に切磋琢磨しています。

現在清周寮では、13名の利用者が生活しています。その中にはこの春中学校を卒業したばかりの15歳のAさんもいます。入寮するまで就労経験が無く、働くことの大変さ、難しさを知らなかった彼女ですが、入寮して1週間で接客の仕事が決定!日々職場で愛のこもっ

た喝を入れられながら少しずつ出来る事が増え、それが自信へと繋がっているように感じます。そして、契約社員の話を頂くまでになりました。また、職場の方の理解や、お客様からの優しいエールを受け、人との繋がりやコミュニケーションの大切さを学んでいます。

現在は18歳から20歳目前の利用者が多く生活し、お互いに仕事や自立について話し合い、それぞれの課題解決に向けて頑張っています。夏以降に仮寮舎への移転がある為、彼女らに影響が出ないよう職員一同精進していききたいと思います。



## 自立援助ホーム おうぎ寮のようす (定員 6 名)

新年度を迎えたおうぎ寮の朝は、毎日慌しく通学していく利用者を送り出すところから始まります。

橋をつくりたいという夢を持ち専門学校に進学し、日々忙しいなかで時間を見つけては課題に励んでいる利用者や、対人関係が不安で泣きだしてしてしまうこともあるけれど、二級建築士の資格取得を目指し、仕事と学校を両立している利用者、大学へ進学したいという思いを強く持ちながらも金銭的な問題等進学までにはいくつもの壁がある利用者もいます。今年3月には通信制高校に通っていた利用者の卒業式に参加してきました。愚痴を言いながらもきちんと通学し、卒業証書を受け取った晴れやかな笑顔に成長を感じずにはいられません。彼はこれから自分の店を持つという目標に向かい、働きながら技術を身につけていくそうです。

これからも迷うことや失敗することは沢山あると思います。しかし、いろんなことに挑戦する気持ちを大切に充実した人生にしていって欲しいです!!



## 第7回青少年福祉センター成人式 開催



毎年恒例となりました青少年福祉センター成人式を、1月10日(土)にホテル・ラングウッドにて開催いたしました。当日は、新成人59名中25名が晴れ姿で集い、ご来場の皆様に祝福されました。諸般の事情により、一緒に過ごすことができなかつたご家族の方や担当福祉司、当法人に入所する以前の関係者など多くの方が出席され、彼らの凛々しい姿に感激されていました。新成人一人一人が、壇上で挨拶を述べたおりには、感謝の言葉と共に、しっかりと今後の抱負も述べていました。退所後も社会の荒波にも負けずに自分を律し、成長している姿を見て私共も嬉しく、励まされました。参

加する新成人も増え、手持ちの振袖が不足し頭を抱えていましたが、とても有難いことに振袖一式をご寄附してくださった会社のご尽力により全員が振袖姿で当日を迎えることができました。新成人はもちろん、ご来場の皆様方もその晴れやかさに喜んでいらっしゃいました。人生の大切な節目でもある成人式をこの様に行えるようになりましたのも、ご協力下さいました皆様方のお蔭と、感謝申し上げます。

【ご支援いただいた企業・団体の皆様に改めて感謝申し上げます】

一般社団法人いけばなインターナショナル東京支部／株式会社 カネボウ化粧品／マドラス 株式会社／国際ソロプチミスト東京-広尾／株式会社 京王プラザホテル／株式会社 丸昌／国際ソロプチミスト東京-弥生／京都きもの友禅株式会社／株式会社 モスフードサービス／東京西北ロータリークラブ／ゼブラ 株式会社／株式会社 吉田／Aib 株式会社／一般財団法人 まちづくり地球市民財団／株式会社 ロフト／株式会社 エキップ／株式会社 タカキュー／ホテルラングウッド／株式会社 カタログハウス／株式会社 似鳥工務店

(敬称略・順不同)

## おうぎバザー開催

おうぎバザーには、地域交流・利用者の成長・資金調達という3つの目的があります。地域交流のためには、初の試みで、長谷場新宿寮1階を会場の一部としました。また、利用者達には、できるだけ一緒に参加し、人に対して何かをする喜びを知り、皆が力を合わせ努力していることを学んで欲しいと望みました。売上はすべて退所利用者のための資金となり、目標額は40万円としていました。

7月11日(土)、ボランティア・利用者・職員の大勢が協力し、焼きそばやからあげ等の飲食品、ヨーヨー・射的等のゲーム、新鮮野菜・書籍・雑貨・衣料品等の販売をしました。まるで夏祭りのような賑わいでした。暑い日でしたので、かき氷やスムージーがとても人気でした。ゲームコーナーには室内でお絵かきをして遊べる無料スペースも作りました。後援企業様よりご寄附いただいた妖怪ウォッチどんぶりのプレゼントも喜んでもらえたようでした。お子さん達が夢中で遊んでいる間に・・・、大人のお客様には、たくさんのお買い物を楽しんでいただきました。

その結果、おかげさまで、売上目標まではあと少しで

した。お客様の休憩所として利用いただいた長谷場新宿寮の地域交流スペースはいかがでしたでしょうか。今後、必要があれば地域の皆さまにもご利用いただける予定です。利用者達も売り子や呼び込みをして頑張っていた様子が微笑ましく、頼もしくもありました。少しでも成長できたのではないのでしょうか。

いつもながら、お客様・ボランティアさん・協力企業団体の皆様、本当にありがとうございました。皆様への感謝の気持ちを忘れず、日々、利用者や退所者達と向き合っていこうと存じます。



平成 26 年度 決算書 (資金収支計算書一部抜粋) (単位:円)

	勘定科目	法人合計	本部	長谷場新宿寮	清周寮	おうぎ寮	暁星学園	あけの星学園	ノエル
経常収入	児童福祉事業収入	529,671,960	0	50,998,878	48,893,730	26,045,118	258,732,786	145,001,448	0
	障害福祉サービス事業収入	6,745,367	0	0	0	0	0	0	6,745,367
	寄附金収入	31,590,424	25,186,130	2,545,000	1,500,000	655,000	92,000	349,294	1,263,000
	雑収入 (受取利息含む)	19,860,859	7,354,712	1,842,798	1,157,747	1,509,317	5,606,180	2,355,044	35,061
	収入計	587,868,610	32,540,842	55,386,676	51,551,477	28,209,435	264,430,966	147,705,786	8,043,428
経常支出	人件費支出	354,627,258	18,930,845	34,298,133	32,511,056	23,927,336	155,033,018	85,711,199	4,215,671
	事務費支出	63,034,428	10,819,570	7,619,678	2,925,210	2,793,040	21,611,968	14,509,519	2,755,443
	事業費支出	83,735,437	0	7,568,348	4,280,426	1,842,386	43,715,925	25,406,282	922,070
	雑支出 (支払利息含む)	8,329,147	83,770	1,319,544	705,504	414,291	4,070,092	1,703,165	32,781
	支出計	509,726,270	29,834,185	50,805,703	40,422,196	28,977,053	224,431,003	127,330,165	7,925,965
	経常活動 資金収支差額	78,142,340	2,706,657	4,580,973	11,129,281	-767,618	39,999,963	20,375,621	117,463

東京少年友の会より感謝状をいただきました

長谷場新宿寮、清周寮では永年にわたり、家庭裁判所からの補導委託先として非行のある少年を受け入れてきました。その功績が評価され、東京少年友の会より創立50周年にあたり感謝状をいただきました。

少年たちが安心して暮らせる生活の基盤を整え、あたたかで力強い関わりと就労の経験を通し、未来に向かって再び歩みだすことができるよう、これからも取り組んでいく所存です。



保木間地区建て替えプロジェクト



昨年のセンター通信でお知らせ致しました様に、保木間地区の建て替え工事が、東京都からの補助金交付の内示を受け本格的に始動しました。東京オリンピック開催の影響を受けて、工事費が当初の見込みより高騰し、資金集めを再開せざるを得ない状況となりました。

とても有難いことに、株式会社大林組様より工事費の一部をご寄付いただけることとなり、資金の目途も少しずつ立つようになってきてはおります。今後も子どもたちの安全安心を守るとともに、今以上に地域に貢献できる施設になるよう本プロジェクトを進めていく予定です。

編集後記

今回のバザーは、台風が心配でしたが、当日は天候に恵まれ暑すぎるくらいの晴天でした。それも手伝い、スムージーは行列ができるほどの大盛況。

前回の扇バザーでピーチとバナナとスムージーが好評だったこともあり、今回はパイナップルも加えたトロピカルスムージーを販売しました。今回もオリジナルキャラクターを考案、キャラクター入りのカップが大活躍でした。

